

Title	集団検診雑感
Author(s)	中野, 陽典
Citation	癌と人. 1974, 2, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24216
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

集団検診雑感

中 野 陽 典*

吹田市、箕面市において昭和43年9月にはじめられた乳癌の集団検診は、昭和48年8月をもって丸5年間行われたことになる。この間に延8,017名の婦人が受診し14名が乳癌と診断された。

昭和48年度は2,002名の婦人が受診し3名が乳癌と診断された。

このように海のものとも山のものともわからずはじめられた乳癌の集団検診は着実な効果をあげてきたのである。この集団検診の生みの親であり育ての親でもあった芝茂先生は、このたび大阪大学を停年退官されることになった。昭和49年3月30日には、集団検診の関係者がつどい、その席で芝先生に吹田市長から乳癌集団検診についての御尽力に対して感謝状が贈られた。芝先生は御退官後も機会があれば乳癌の集団検診に参加したいとの御希望であり並々ならぬ熱意に関係者一同ますますこの事業を発展せしめねばと肝にめいじている。

また同日、吹田市役所衛生課、吹田保健所、吹田市医師会、吹田母子会、日生済生会社会事業部、阪大微研病院の関係者によって、早期癌発見対策についての懇談が行われた。本年度には胃癌の集団検診も乳癌と同様、従来にも増していよいよ発展する見通しである。

乳癌の集団検診5年間を振り返ってみて予想外に多くの乳癌が見つかったという成果の他にいろいろの反省もでてきた。小さな乳癌を見のがしはしなかったか、無腫瘍の乳癌はどうすれば見つけられるか、専門家相寄っていろいろと対策を考えている。

受診者をもっと増やそう、再診率を高めねばということも今後の努力目標となった。この点については関係婦人団体、市当局の御協力、御援助を願う次第である。

また5年間の経験から、一般の受診者の方に

2, 3のことを訴えたい。その第1は、1度、2度と集団検診を受診して異常がなかったも毎年1回は欠かさず受診すること。安心して受診をやめてしまった人の中から後に3名の乳癌患者がでてくる。第2は、乳癌は時期さえ失しなければ正しい手術で根治するのだということを知ってもらいたいこと。誤った恐怖心を持たず神経質にならず気楽に集団検診を受けていただきたい。精密検査の必要をつけると“乳癌でしょうか”と顔をこわばらせて問いかけられる方が非常に多く、念のための精密検査であることを一生懸命説明することもしばしばある。また集団検診が行われていることを知っていながら受診していない方は、他人事と考えず是非とも受診してほしい。近所に乳癌で亡くなった方が出たというので、どつとあふれるほどの人が検診を受けにこられたこともある。そういうことがなくても自らの健康は常に自ら守ることが必要であろう。

集団検診を行うということの陰には、いつも種々の方のたゆみない地味な努力があることを忘れてはならない。婦人団体の役員の方が、本当に努力されていることを検診に行くたびに痛感している。ある時には、わずか3人の方しか受診されなかったこともあったが、役員の方が“私たちだけでも診ていただきましょうか”と申しわけなさそうに言われたこともあった。本当に気苦労をおかけしているなあと思うと同時に集団検診とくに地域住民を対象とするものもつかしさを知った。

また吹田母子会の役員の方は毎週欠かさずお世話に見えて、手ぎわよく受診者を整理、誘導されていたが本当に大変なことだと感心した次第である。そのほか、検診を行う医師、介助者、市当局その他の関係団体一体となった協力体制が必要であることは言うまでもない。

* 大阪大学微生物病研究所附属病院外科

乳癌は、ある程度自己検診が可能であり、しかも最初から乳癌専門医が検診しても乳癌患者を発見する割合が少なくて労力に比べて効果の少いことを理由に集団検診の意義を否定する向きもあるようであるが、外科医による触診が自己検診にはるかに勝ること、自己検診法の啓蒙が言うはやさしくして行うに難しいこと、1地域での集団検診の実施が、はるかに大きな啓蒙の余波を他にまでおよぼしていることから、検診実施の当事者としてその意義を信ずるもの

検診実施の当事者としてその意義を信ずるものである。

われわれは、さらに地道な努力でこつこつと1人1人の検診を確実につゞけ、吹田市から箕面市から乳癌で亡くなる方が跡をたつことを念じ、それぞれの関係者各位と共に頑張りたい。

すでに吹田市における胃癌の集団検診も本年度はさらに拡大されるべく計画されている。乳癌の検診と共にさらに普及することを希望する次第である。

